

2011 年 10 月 26 日

株式会社パスコ

(報道資料)

地理空間情報のクラウドサービス「PasCAL for LGWAN」の提供開始 - 地方公共団体における行政業務の安全性と信頼性を向上 -

株式会社パスコ（本社：東京都目黒区、代表取締役社長：杉本陽一、資本金：87 億円、セコムグループ、東証1部、以下パスコ）は、航空機や人工衛星を用いて収集した地理空間情報を処理・加工し、お客さまの課題解決に必要な地理空間情報サービスを提供しています。

この度、パスコでは地方公共団体向け GIS（地理情報システム）クラウドサービス「PasCAL for LGWAN」の提供を開始します。本サービスの提供により、安全性と信頼性の向上を図りながら行政業務の効率化を支援します。

「LGWAN（広域行政情報ネットワーク）」は、厳しい審査を通過した限られた企業と政府機関や地方公共団体のみが接続できる、セキュリティが確保されたネットワークです。既にパスコでは本ネットワーク上に、固定資産情報や個人情報を含むデータを送受信するための「ファイル交換サービス」を提供しています。これらに加えこのたび、固定資産・道路・地下埋設物管理などの行政業務向けの GIS クラウドサービス「PasCAL for LGWAN」の提供を開始します。

「PasCAL for LGWAN」は、ソフトウェアの機能をネットワーク経由で利用する「SaaS 方式」を採用、組織内にシステムを置くインハウス方式と比較し、導入・運用コストの削減と利便性を向上させるとともに、クラウド化により災害発生時の危機管理としても有効なサービスです。

＜サービスの特徴＞

■「LGWAN」の採用による、安全性の実現

行政業務で取り扱う各種情報には重要な秘匿すべき情報が含まれるため、情報漏洩が発生した際の社会へ与える影響も甚大です。漏洩防止のために多大な労力が生じる問題を解決するために、安全なネットワークである「LGWAN」を活用したサービスの提供で、安全かつ効率的な業務運営に繋がります。

■クラウド化により危機管理を支援

地方公共団体では、自然災害などの被害からの復旧・復興において、固定資産や上下水道管理などの GIS サービスの必要性が高まっています。しかしながら東日本大震災の例を見ても、被災

自治体でその GIS サービスの運用そのものを復旧させるために甚大な時間と労力を要しています。パスコの提案する GIS クラウドサービスでは、「LGWAN」に接続したデータセンターに安全にデータを保管するだけでなく、ネットワークを経由してソフトウェアとデータを提供し、被災自治体の復旧・復興を支援します。

<「PasCAL(パスカル)」とは>

「PasCAL」は、パスコが長年蓄積した地方公共団体における GIS サービス構築のノウハウをもとに開発した業務支援パッケージシステムです。2000 年のサービス開始から、国内 500 団体以上の導入実績をもつ統合型 GIS「PasCAL」は、複数の部署で地図データを共有しながら、電子自治体の効率的運用を実現します。

<「LGWAN:Local Government WAN」とは>

地方公共団体を相互に接続する総合行政ネットワークです。地方公共団体相互間のコミュニケーションの円滑化、情報の共有による情報の高度利用を図るための基盤として整備され、全国の地方公共団体の組織内ネットワークを相互に接続しております。また、府省間ネットワークである「霞が関 WAN」との相互接続により、国の機関との情報交換を行っております。

「LGWAN」では、電子メール、文書交換システム、電子掲示板などの基本的サービスのほか、地方公共団体が発信する電子文書等について、秘密を保持し、認証を行い、改ざんや否認を防止するためのシステムなど様々な行政用アプリケーションサービスが提供されています。

■問い合わせ先

(報道関係から) 株式会社パスコ 広報担当 TEL:03-6412-2800
(お客さまから) 株式会社パスコ カスタマーセンター TEL:0120-494-800

以上